

①学校名:	奈良先端科学技術大学院大学 大学院(国立)	②所在地:	奈良県生駒市高山町8916-5		
③課程名:	ICTをコアとするイノベータ育成プログラム	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	2016/2/15
⑥責任者:	松本 健一 (先端科学技術研究科・ 情報科学領域 領域長 教授)	⑦定員:	30人	⑧期間:	1年間
⑨申請する課程の目的・概要:	AI、ビッグデータ、IoTなどを含むICTを活用したイノベーション創出を指向する者を対象として、当該関連分野に於ける基盤的技術素養、プロダクトデザイン、および、ビジネスモデルデザインに関する技能の習得を目的として、ビジネスプラン構築、プロトタイプ開発、ビジネスプレゼンテーション等の授業並びに講習を内容としたカリキュラムを提供するプログラム				
⑩4テーマへの該当の有無	中小企業活性化	⑪履修資格:	学校教育法第102条に規定する大学院に入学することができる者		
⑫対象とする職業の種類:	ICT関連の技術系企業において新規事業・商品等の企画・開発を主導する企業内イノベータ、あるいは国内外でビジネスを展開するベンチャー企業のCEO(最高経営責任者)やCTO(最高技術責任者)				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) AI、ビッグデータ、IoTなどを含むICTを活用したイノベータとして活動するに足る技術的素養とマーケットに関する知識、ビジネスセンス		(得られる能力) 課題発見・解決能力、広い視野、ビジネスプランを見る力、作る力、伝える力、修正する力		
⑭教育課程:	イノベーション創出特論Ⅰ/Ⅱにおいて、起業家やイノベーションの専門家による講演やグループディスカッションを通じて、イノベーションマインドの醸成とアイデア創出のスキルを修得させる。イノベーション創出特論Ⅲ/Ⅳでは、グループワークを通じて、アイデアの具現化・試作とビジネスプランの構築までを体験させ、その中でイノベーション創出能力を高める。イノベーション創出特論Ⅴでは、資金調達などにおいて重要となるビジネスプランのプレゼンテーションスキルを修得させる。プロトタイピング基礎A~Dでは、3Dプリンティング法、IoTデバイスプログラミング、機械学習システム構築法などの基礎を修得させ、実際にプロトタイピングができるための基盤を養成する。ラボ研究A/Bでは、IoT、AI、ビッグデータ等の最先端研究に取り組む研究室を訪問して、最新動向や最先端技術について学ぶ。プロトタイピング実践では、各自で考えたビジネスプランに関連したプロトタイプを作成することを通して、プロトタイピングの実践力を身につける。対外研修A/Bでは、チームを組織して連携組織等で実施されるビジネスチャレンジ等のコンペティション(外部イベント)に参加し、外部評価などを受けることにより、イノベーション能力のさらなる向上を図る。				
⑮修了要件(修了授業時数等):	総合科目87時間、技術科目18時間を含む合計120時間以上を受講すること。				
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書				
⑰総授業時数:	145 時間	⑱要件該当授業時数:	145	該当要件 双方向 実務家	⑲要件該当授業時数 /総授業時数: 100%
⑳成績評価の方法:	イノベーション創出特論1~5に関しては、奈良先端科学技術大学院大学の正規の授業科目として実施しているものであり、その正規の受講生と同じ評価基準を採用し、取り組みに対する貢献度、取り組み成果(ビジネスプラン、プレゼンテーションスキルなど)で評価する。その他の講習に関しては、事前に設定した達成目標に対する達成度を担当教員が評価する。				
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。「外部評価会議(会議)」で出された意見を取りまとめたものを、本課程の企画・運営を担う「運営委員会」に附議して教育効果等を検証し、その検証結果の報告をもとに、「教育推進会議」で、課程の点検、評価を行う。また、当該検証・評価結果については、ウェブサイトにおいて公表する。				
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	本課程は、文部科学省次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)の中での取り組みを発展させたものであり、このEDGE-NEXTの中では効果検証のためのアンケート調査手法が導入されている。本過程においてもこの方法を継続使用することを基本とする。また、課程修了者の同窓会組織を構築し、その中で修了者の動向をトラッキングする。				

②③企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成)</p> <p>本プログラムは、大阪イノベーションハブと連携した取り組みであり、そこには関西のイノベーション創出に関心のある中小企業が多数会員として登録されている。その会員に対するヒアリングやアンケートなどの結果を将来の教育課程の編成などに反映させる。</p> <p>(自己点検・評価)</p> <p>本取り組みに対して、国内のEDGE-NEXT実施機関の有識者を加えて外部評価委員会を設置する。</p>
--------------------	--

④社会人が受講しやすい工夫:	実施場所としては、大阪中心部に位置する大阪イノベーションハブでの実施を主とする。実施日についても、土日もしくは平日夕刻以降の開催とする。
⑤ホームページ:	<a href="https://geiot.naist.jp/">https://geiot.naist.jp/</a>

事務担当者名:	荒瀬 大	所属部署:	企画・教育部 教育支援課
連絡先:	(電話番号) 0743-72-5136 (E-mail) <a href="mailto:gakukyo@ad.naist.jp">gakukyo@ad.naist.jp</a>		

- \* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。
- \* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。